

刊行に際して

本會は言うまでもなく西洋中世の哲學思想の研究に關心を有する學徒の團體であつて、數年前、互いに連絡を通じて研究を助け合ひまた之によつて交友を温めることを目的として學會を組織したのであるが、その後徐々に會員數も加わり、毎年の研究大會も既に五回も重ねて盛んになつて來た。その間に印刷物によつて各自の業績を一般學界に問いたいとの計畫を幾度か企てたが、經濟上の理由によつていつも成功しなかつた。然るに今回斯學に特に深い關心を有せられる同情者から好意ある援助を提供され、また研究に熱心な先輩會員からは苦心の勞作を寄稿されて、ここにこの論集を編輯印刷することが出來、多年の宿題が實現されるに至つたのは、まことにありがたいことと言う外はない。この種の専門的學術研究は容易に印刷刊行することが出來ないので、本論集の公刊は本會の發展に取つて重大な事柄であり會員一同の深い喜びであるばかりでなく、學術進歩のために心から慶賀して止まない次第である。之を第一歩として斯學の發展のますます隆盛を祈りたいと思う。

われわれのこの會は中世哲學會と稱するが、嚴密にその範圍を西洋中世の哲學に限定しようとする譯ではなく、廣く之に關連する學術宗教藝術社會歴史等の諸文化部門に亘つて眼を開き、また時代的にも古代に遡つてその淵源をたずね、あるいは近世に降つてその影響を辿ることを念願している。純粹に學問研究の志を抱く同學同好の士を迎えて互いに協力し益するところありたいと願つている次第である。本論集發刊を機として志を述べ、研學の心に燃える讀者に訴えたい。

終りに特に編輯刊行のために好意を與えられた南山大學を始め、多忙な研究生活の中に貴重な論稿を寄與された諸會員、特に編輯の勞を取られた

江藤太郎氏及び事務に執掌された諸兄に對して、本會を代表し心からの感謝の意を表したい。

昭和三十三年二月十一日

石 原 謙